

## 東愛知新聞

# 金子さんが母校の新城東郷中で講演

投稿日: 2022年9月23日 **講演・講義**

本紙でエッセー「令和つれづれ草」を連載中の元外交官で外交評論家、金子熊夫さん(85)が22日、母校の新城市立東郷中学校(しんしろ しりつ とうごうちゅうがっこう)で講演した。

PTAの主催で、生徒と保護者が、新城から世界を飛び回った大先輩の話に耳を傾けた。

金子さんは同中から新城高校、名古屋大学、米ハーバード大学法科大学院を経て外務省に入省し約30年にわたって世界各地で勤務した。ベトナム戦争のさなかにサイゴンの日本大使館に赴任、戦闘に巻き込まれたことも。出向した国連で環境計画(UNEP)の創設に参加。初代の外務省 原子力課長 日米原子力交渉などを担当した。その様子は2020年に連載が始まった「令和つれづれ草」で詳述されている。

この日のテーマは「なぜ戦争はなくなるか～日本の平和と安全を考える」。ロシアによるウクライナ侵攻が続く現在、日本の将来を担う子どもたちに広い視点で考えてもらおうとテーマを選んだ。

70年ぶりに母校へ来たという金子さんは、中学生の時に始まった朝鮮戦争(1950～53年)がすごく身近に感じられたと振り返った。そして日本の置かれた立場に危機感を持ち、英語の勉強を始め、外交官を志したという。

金子さんは、今のうちに俯瞰(ふかん)して日本を見ることが大事と呼びかけた。そして「相手の国から日本がどのように見られているかを考えるように」と話し、地図を逆さまに見た場合、中国にとって日本の存在が「太平洋に出るのを邪魔している」と見られていることを説明した。

そのうえで、抑止力とは何かについて述べた。戦力不保持を定めた憲法9条2項に矛盾があると持論を展開。「自分たちの世代はこの問題をごまかしてきた。みなさんはしっかり議論し、考えよう」と促した。

【山田一晶】



講演する金子さん=新城市立東郷中で